



TITLE:

III.研究教育活動, 4.外国人研究員

AUTHOR(S):

CITATION:

III.研究教育活動, 4.外国人研究員. 霊長類研究所年報 2018, 48: 76-77

ISSUE DATE:

2018-10-19

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/236454>

RIGHT:

日本	中部大学創発学術院	2016.9.2	5 年間 (自動継続)
日本	公益財団法人鹿児島市水族館公社 (かごしま水族館)	2016.11.1	5 年間 (自動継続)

3. 学位取得者と論文題目

京都大学博士（理学）

Renata Andreia da Silva Mendonça（課程）：Development of independence and behavior of wild immature East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*), Danum Valley Conservation Area（ダナムバレイ保護区の東ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus morio*) の未成熟個体における自立性と行動の発達）

柳興鎮（RYU, Heungjin）（課程）：Mechanisms and socio-sexual functions of female sexual swelling, and male mating strategies in wild bonobos（野生ボノボのメスの性皮腫脹のメカニズムと社会的・性的機能とオスの交尾戦略）

Yena Kim（課程）：The origin of prosociality and fairness: Perspectives from experiments with orangutans（向社会性と公平性の起源：オランウータンでの実験研究からの視点）

西栄美子（課程）：旧世界ザルにおける甘味受容体機能の多様性

酒多穂波（課程）：自発的運動開始に先行する脳活動

寺田佐恵子（課程）：Habitat use of bonobos at Wamba, D.R.Congo: utilization of diverse vegetation including swampy and anthropogenic habitat（コンゴ民主共和国ワンバにおけるボノボの生息地利用：湿地及び人為利用地を含む多様な植生の活用）

Rafaela Sayuri Cicalise Takeshita（課程）：Factors regulating steroid hormones in Japanese macaques and orangutans（ニホンザルとオランウータンにおけるステロイドホルモンの動態を調節する要因）

小谷真奈斗（論文）：精神疾患治療薬の創製に向けたコモンマーモセットを対象としたバイオマーカー研究

京都大学修士（理学）

Gao Jie：チンパンジーによる身体知覚における倒立効果—同種他個体の身体的全体的処理に関する研究—

浅見真生：幾何学的形態解析によるマカク属遊離歯化石の種同定

糸井川壮太：キツネザル類における苦味受容体 TAS2R16 の機能多様性

岡村弘樹：野生ボノボにおける森林内の高さ利用の個体差の研究

川口ゆり：チンパンジーにおける赤ちゃんの認知：乳児の持つ報酬的作用と注意効果

河本悠吾：スマトラオランウータンにおける酸味受容体候補 PKD1L3/PKD2L1 の遺伝子解析および機能解析

黒木康太：マカクザルにおける精巣の生後発達を制御する遺伝子群の特定

黒木結花：ニホンザルを用いた逐次タッチ課題におけるタッチ順序の解析：自発的な系列パターン生成に関する考察

坂田良徳：コモンマーモセットにおける親から仔への利他的行動

高田裕生：脊髄損傷サルモデルにおける運動関連領野の神経可塑的变化の解明

柘植仁美：大脳皮質—基底核ループ回路への介入解析を目的としたマーモセットモデルの開発

峠明社：同所的オナガザル属3種の昆虫食におけるニッチ幅とニッチ重複

中村泉：屋久島海岸域に生息するニホンザルの果実選択

植原慧：コモンマーモセットにおけるブレバリスインヒビション(PPI)測定系の開発

4. 外国人研究員

招へい外国人学者・外国人共同研究者

K Finn（アメリカ合衆国、カリフォルニア大学・大学院生）

（2017.3.30～2017.6.26）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：ニホンザルにおける行動の時間的区間的分析

V Romano de Paula（フランス、ストラスブール大学・大学院生）

（2016.9.12～2017.8.27）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：病気発生の予測と予防のための霊長類の社会的ネットワークの使用

（2017.11.27～2019.11.26）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：環境圧力、社会性、健康における関連性の理解

J Duboscq（フランス 所属・無）

（2017.9.9～2019.9.8）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：マカク類の感染症が宿主の行動に与える影響とそのリスク評価

D Jones (アメリカ合衆国、ケント州立大学・大学院生)

(2017.6.20～2017.8.21)

受入教員：後藤幸織

研究題目：ニホンザルグループケージでの社会的行動の観察とその遺伝的基盤の解明

S Koopman (アメリカ合衆国、ロチェスター大学・大学院生)

(2017.9.1～2018.2.28)

受入教員：友永雅己

研究題目：ヒト以外の霊長類における数概念の形成に関する比較認知科学研究

B Kubenova (チェコ 南ボヘミア大学)

(2017.11.1～2019.10.31)

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：ニホンザルにおける乳幼児 handling および乳幼児とワカモノの社会関係の形成

5. 日本人研究員・研修員

日本学術振興会特別研究員(PD)

山本知里 (2017.4.1～2020.3.31) 受入教員：友永雅己

研究題目：ハンドウイルカにおける社会的知性に関する比較認知科学研究

栗原洋介 (2017.4.1～2018.3.31) 受入教員：半谷吾郎

研究題目：屋久島に生息するニホンザルの社会変動を引き起こす生態学的メカニズムの解明

6. 研究集会

所内談話会

(*Asura International Seminar (Primateology and Wildlife Science)との共催)

第1回：2017年4月27日(木)*

Anna Wilkinson (Visiting Associate Professor, Wildlife Research Center of Kyoto University, University of Lincoln)

「Cold-Blooded Cognition」

第2回：2017年10月10日(火)

松本結 (国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第七部 研究員)

「マウスの超音波コミュニケーション」

鈴木俊貴 (京都大学生態学研究センター)

「シジュウカラの音声コミュニケーション」

第3回：2018年2月27日(火)

六車明 (慶応大法科大学院 教授)

「ハードローとソフトロー ―法律とガイドラインはどこがちがうのか―」

磯崎博司 (上智大学大学院地球環境学研究科 客員教授)

「野生生物に関する国際法と国内法 ―法令遵守と公正取引―」

第4回：2018年3月27日(火)

Christian T. Herbst (Laboratory of Bio-Acoustic, Dept. of Cognitive Biology, University of Vienna,

京都大学霊長類研究所特定准教授)

「The myoelastic-aerodynamic theory of sound production in humans, mammals, and birds」

第5回：2018年3月28日(水)

Janet Nackoney (Associate Research Professor, Department of Geographical Sciences at the University of Maryland)

「Geospatial information informs conservation efforts in the Democratic Republic of the Congo」

(文責：時吉真由美、服部裕子)

7. 2017年 霊長類学総合ゼミナール

The Interdisciplinary Seminar on Primatology 2017

日時：2017年12月14日(木)

場所：京都大学霊長類研究所 大会議室

発表：22件(口頭：14件、ポスター：8件)

霊長類学総合ゼミナールは霊長類学系の正式なカリキュラムに組み込まれており、毎年TAを中心とした大学院生が企画運営し、所内の教員、研究員、学生の研究交流を促進することを目的として開催されている。本年は、